

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第2部門第1区分

【発行日】平成22年9月16日(2010.9.16)

【公開番号】特開2010-104989(P2010-104989A)

【公開日】平成22年5月13日(2010.5.13)

【年通号数】公開・登録公報2010-019

【出願番号】特願2010-10006(P2010-10006)

【国際特許分類】

B 05 B 5/057 (2006.01)

F 24 F 6/12 (2006.01)

A 45 D 44/22 (2006.01)

【F I】

B 05 B 5/057
F 24 F 6/12 101Z
A 45 D 44/22 Z

【手続補正書】

【提出日】平成22年8月2日(2010.8.2)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

熱交換によって空気を冷却して結露水を生成し、この結露水を放電極に保持させた状態で、放電極の先端に電荷が集中するように高電圧を印加してイオンミストを発生させ、該イオンミストを送風により空気中に漂わせて、人体に曝露させることを特徴とするイオンミストによる保湿方法。

【請求項2】

熱交換によって空気を冷却して氷結させた氷を溶解させ、溶解した水を放電極に保持させた状態で、放電極の先端に電荷が集中するように高電圧を印加してイオンミストを発生させ、該イオンミストを送風により空気中に漂わせて、人体に曝露させることを特徴とするイオンミストによる保湿方法。

【請求項3】

熱交換によって空気を冷却して結露水を生成し、この結露水を放電極に保持させた状態で、放電極の先端に電荷が集中するように高電圧を印加し、送風により空気中に漂わせて人体に曝露して保湿するためのイオンミストを生成することを特徴とする静電霧化装置。

【請求項4】

熱交換によって空気を冷却して氷結させた氷を溶解させ、溶解した水を放電極に保持させた状態で、放電極の先端に電荷が集中するように高電圧を印加し、送風により空気中に漂わせて人体に曝露して保湿するためのイオンミストを生成することを特徴とする静電霧化装置。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】発明の名称

【補正方法】変更

【補正の内容】

【発明の名称】イオンミストによる保湿方法及び静電霧化装置

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0001

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0001】

本発明は、イオンミストによる保湿方法及び静電霧化装置に関するものである。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0005

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0005】

本発明は上記問題点に鑑みて発明したものであって、使用者に水補給の手間や付着物除去の手間を強いることなく、イオンミストを人体に曝露させて保湿することができる保湿方法や静電霧化装置を提供することを課題とするものである。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

また、本発明が、熱交換によって空気を冷却して氷結させた氷を溶解させ、溶解した水を放電極に保持させた状態で、放電極の先端に電荷が集中するように高電圧を印加してイオンミストを発生させ、該イオンミストを送風により空気中に漂わせて、人体に曝露させることを特徴とした、イオンミストによる保湿方法であってもよい。

また、本発明が、熱交換によって空気を冷却して結露水を生成し、この結露水を放電極に保持させた状態で、放電極の先端に電荷が集中するように高電圧を印加し、送風により空気中に漂わせて人体に曝露して保湿するためのイオンミストを生成することを特徴とした、静電霧化装置であってもよい。

また、本発明が、熱交換によって空気を冷却して氷結させた氷を溶解させ、溶解した水を放電極に保持させた状態で、放電極の先端に電荷が集中するように高電圧を印加し、送風により空気中に漂わせて人体に曝露して保湿するためのイオンミストを生成することを特徴とした、静電霧化装置であってもよい。

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

本発明は、使用者に水補給の手間や付着物除去の手間を強いることなく使用することの可能なイオンミストによる保湿方法や静電霧化装置を提供することができるという効果を奏する。